

松本地域の整備方向

地域農業の特徴と農地の整備状況

○地域農業の特徴

松本及び安曇野地域は、梓川を代表とする複数の河川が運んだ砂礫が堆積した複合扇状地で、水が地下に浸透しやすく平安時代から堰沿いの限られた範囲で稲作が行われていましたが、江戸時代以降、等高線に沿って幾つもの堰が築造され農地が開墾されました。近代では、農業水利施設の整備によって用水が安定供給され、稲作のみならず多種多様な農産物が生産される県内屈指の産地として農業が展開されています。

<松本> (松本市の一部、塩尻市、山形村、朝日村)

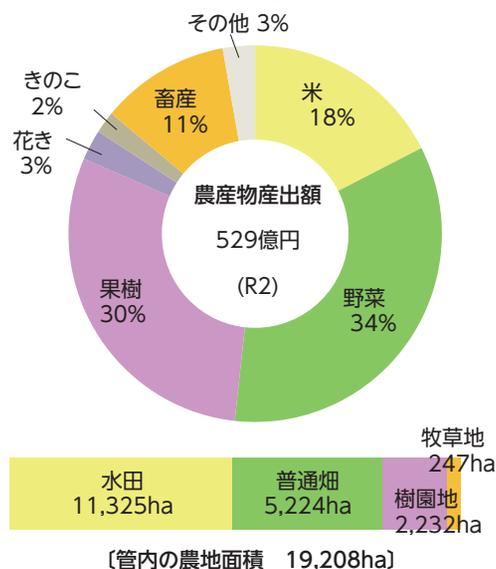
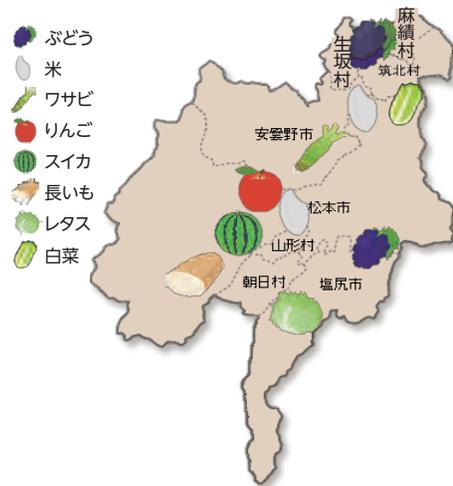
梓川右岸は、レタス・スイカ・ぶどうを中心とした畑作地帯、梓川左岸は、りんごを中心とした果樹地帯、梓川や奈良井川沿いの平坦地では、稲作を中心とした水田地帯が広がっています。

<安曇野> (安曇野市)

西山の裾野は、りんごを中心とした果樹地帯、東に続く平坦地は、複数の堰が運ぶ用水によって稲作を中心とした水田地帯が広がっています。また、浸透した水が湧き出る梓川沿いのワサビ畑は有名です。

<北部中山間> (松本市の一部、麻績村、生坂村、筑北村)

松本及び安曇野地域と比較すると耕作条件等が不利な中で、地域の担い手を中心に、水稲やぶどうなど地域の特色を活かした農産物の付加価値を高める取組が広がり、農地の供給が追い付かない地域もあります。



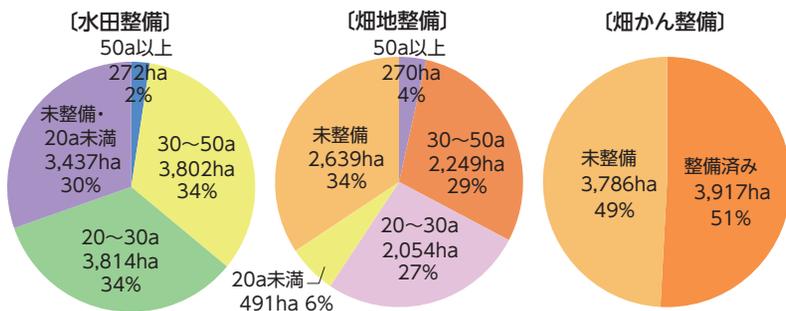
○農地等の整備状況

昭和40年代から進められた、農業水利施設の整備や長野自動車道の建設に伴う周辺農地の区画整理により、農地の整備率は高い水準になっています。

基幹的農業水利施設の延長は289kmと管内の至る所で整備されており、水路や頭首工など重要構造物の長寿命化計画（機能保全計画）が策定されています。

なお、長寿命化計画（機能保全計画）が策定された施設のうち、補修や更新が必要な施設は多数存在しています。

また、施設管理者の要望により、水門を自動化した施設や集中制御による畑地かんがい施設の整備が行われています。



〔農業農村整備事業による ICT やスマート農業の導入状況〕

	用排水路 (km)	頭首工 (か所)	用排水機場 (か所)	水路橋 (か所)
延長・箇所	289	16	6	6
		水路トンネル (か所)	サイホン (か所)	ダム・ため池 (か所)
		19	34	3

水門を自動化・遠隔化した施設	畑かん制御施設 (ローテーション散水制御、集中制御等)
<p>2 か所 二区堰地区ほか</p>	<p>1 地区 1,513ha 中信平地区</p>
<p>ため池の遠隔監視</p>	
<p>37 か所 美鈴湖、聖湖ほか</p>	

地域の現状と課題

- ▷ 松本や安曇野地域を中心に、昭和40年代から建設された農業水利施設の老朽化が進み、更新等が必要となっている基幹的水利施設は41kmに上るため、維持補修・更新に係る農業者の負担軽減が必要となっています。
- ▷ ほ場の区画規模が小さい（30a未満）地域では、ほ場の再整備により大型機械やスマート農業の導入による省力化及び担い手への農地集積を進める必要があります。
- ▷ 野菜や果樹など、高収益作物への転換の促進や、消費者ニーズの高い農産物の生産規模を拡大するため、水田の汎用化や生産基盤の再整備が必要です。
- ▷ 中山間地域では、地域農業の活性化に向けて、担い手農家や新規就農者のための農地の確保が求められています。
- ▷ 近年の異常気象に伴う集中豪雨や牛伏寺断層帯等に起因する大規模地震を想定して、農業用ため池等施設の耐性評価と防災工事が必要です。



老朽化により更新時期を迎えている頭首工（安曇野市）



自動給水栓（WATARAS）の導入試験ほ場（松本市）

施策の展開方向

I 次代を担う産地を支える基盤整備の推進

達成指標

	現状（R3年度）	→	目標（R9年度）
○農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	2か所		4か所
○担い手への農地集積等を可能にする水田の汎用化面積	184ha		188ha

整備方向

- ▷ 梓川右岸の畑地帯及び左岸の樹園地帯では、長寿命化計画（個別施設計画）を適切に策定し、老朽化した農業水利施設の更新・補修を計画的に行うとともに、施設の自動化・遠隔化により水管理の省力化を推進します。
- ▷ 安曇野や中山間地域では農地中間管理機構と連携した基盤整備を実施し、大型機械の導入による営農効率の向上と担い手への農地集積・集約化を促進します。
- ▷ 野菜や果樹など高収益作物への転換を可能とするため、水田の高度利用や経営規模の拡大に対応できる耕作条件を整備します。



大型機械の導入が可能となったほ場（朝日村）

II 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○防災重点農業用ため池の地震耐性評価の実施箇所数	27 か所		95 か所
○地すべり防止施設の更新と長寿命化の推進	3 区域		13 区域

整備方向

- ▷ 集中豪雨や地震が頻発する中、管内の農山村において、豪雨対策・地震対策が必要な農業用ため池等施設の耐性評価と防災工事を実施・支援し、災害から暮らしを守る農村の強靱化を図ります。
- ▷ 管内にある多くのため池を活用した雨水貯留の実施による流域治水対策を推進します。
- ▷ 管内に存する地すべり防止区域内の施設において策定された長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、計画的な補修・更新を行い、施設の長寿命化を推進します。
- ▷ 松本南西部の畑地帯で長年の懸案となっている風食対策について、農業農村支援センター等と連携して取り組みます。



地震対策の防災工事を実施したため池（塩尻市）



風食対策として被覆材の実証試験を実施したほ場（朝日村）

III 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○多面的機能を維持・発揮するための活動面積	11,230ha		11,434ha
○観光資源として伝承する疏水等の箇所数	1 か所		3 か所

整備方向

- ▷ 農業農村の多面的機能を維持するため、多面的機能支払事業の拡大を促進します。
- ▷ 世界かんがい施設遺産に登録された拾ヶ堰や、安曇野の田園風景、湧水群など農業資産を観光へ活用する取組を支援します。
- ▷ 農業資産の役割や歴史的価値について、その重要性を次世代へ伝える地域学習を継続実施するとともに、パンフレット等様々な媒体を活用してその魅力を県内外に広く発信します。



梓川の下を潜って流下する水路のしくみを学ぶ小学生

TOPICS

中山間地域の農地再生に向けた取組が軌道に乗り地域が活性化

新規就農者を受け入れ、地域が活性化 ～県営中山間総合整備事業 いくさか地区～

生坂村はこれまで「山清路巨峰」の産地として、農業の振興に取り組んできましたが、農業者の高齢化や後継者不足などから、荒廃農地の増加による農業の衰退が懸念されていました。

この状況を打開するため、「生坂村農業公社」では、移住を前提とした新規就農者研修制度を導入し、農業振興に向けて新規就農者の育成に積極的に取り組んでいます。

県営中山間総合整備事業で新規就農者のための農地も確保し、就農者は需要に応じたシャインマスカットなどを栽培し、安定した経営が行われています。また、活性化施設併設の直売所での販売は県内外の多くの利用者により好調な状況となっています。さらに新規就農希望がある中で、必要な農地の確保について模索する状況です。引き続きさらなる地域活性化を進めています。



工事実施
ぶどう栽培に適した畑に整備



ぶどうの収穫



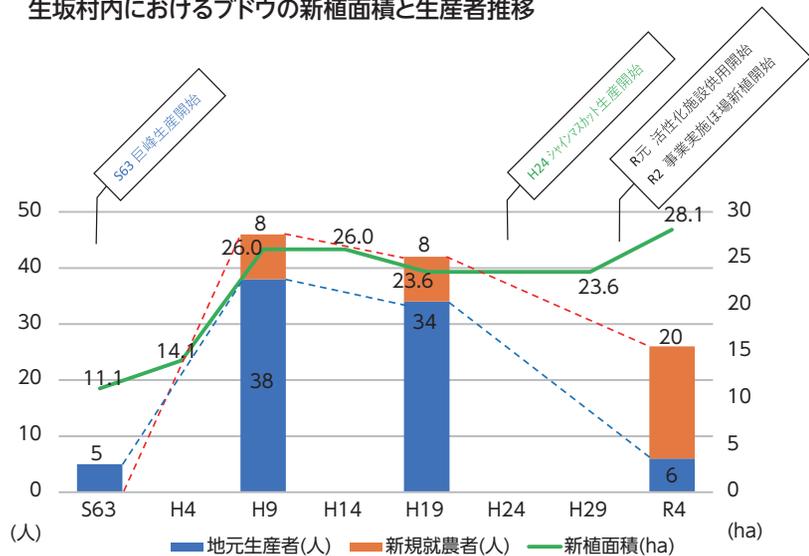
活性化施設特設会場での販売

生坂村では、昭和63年から「山清路巨峰」の産地化を図り、地元ぶどう農家により規模を拡大してきました。

35年が経過する中、村内の栽培面積は着実に増加し、高齢化などにより離農した農業者に替わり、新規就農者が独自の直営販売による安定経営のもと営農を拡大しています。

適期にナガノパープルやシャインマスカットの新品種を導入するとともに、中山間総合整備事業により建設した活性化施設での直売開始、さらには畑地かんがい施設等の営農条件の整ったほ場整備団地での栽培などにより、農業振興は着実に維持されており、地域の活性化に繋がっています。

生坂村内におけるブドウの新植面積と生産者推移



活性化施設でのぶどう販売実績

R元
約6,000千円



R4
約20,000千円

※直営販売により上記とほぼ同額の売上がある

生坂村調べ